

どんな社会をつくっていくか、議論はそこから

# 汐見稔幸編集長と語る 保育の質

保育所保育指針、幼稚園教育要領、ことども園教育要領が2018年、同時改訂され、そのいずれにも「保育の質の向上」というキーワードが盛り込まれました。国際的にも幼児教育の重要性への認識は高まっています。

そもそも「保育の質」とは何なのでしょうか。

それを高めるとは、具体的に何をどうすることなのでしょうか。

エデュカーレ創刊100号を記念し、  
汐見稔幸編集長司会のもとに、  
「保育の質」についての座談会を  
リモートで開催しました。

## 保育の質を高める要素

- ①子ども主体の保育をしている。
- ②保育を語り合う風土がある。
- ③保育者同士の関係がよい。
- ④家庭や地域とつながっている。
- ⑤リーダー層がしっかりとしている。

——大豆生田

[座談会出席者]



柿沼平太郎  
学校法人柿沼学園  
幼稚園認定こども園  
こどもむら理事長



北野久美  
社会福祉法人愛育会  
認定こども園  
あけぼの愛育保育園園長



大豆生田啓友  
玉川大学教授  
エデュカーレ編集長



汐見稔幸  
エデュカーレ編集長



**保育者**

行政によって保育の質が議論されるようになつた。これは大きな一步です（大豆生田）

**現場からのボトムアップで保育の質を高める**

沙見 おかげさまでエデュカーレは今号で創刊100号となりました。次からの100号をどういう雑誌にしていくかを考えるにあたり、いま保育界を担っていらっしゃるみなさんに、これからますます重要視される「保育の質」について、率直に語り合っていただきたいと思います。

それではまず、大学で教鞭をとりながら、「保育所等における保育の質の確保・向上に関する検討会」のメンバーでもある大豆生田さんからお読みします。

大豆生田 いま日本は、保育の大酒

動向にあると思っています。これまで保育で語られてきたのは、待機児童を含め「量」の問題ばかりで、「質」はなおりにされていました。

がいま、厚生労働省や文部科学省において「保育の質」がやっと本格的に議論されるようになった。これは大きな一步です。

一方で、保育の質とは何なのか、定義することは難しいとも感じています。これまで大切にされてきた子ども主体・遊び中心の保育のあり方や一人ひとりの子どもに対する手厚いかかり、保育者の開拓性、マネジメントを通して、家庭や地域を巻き込みながら高めていくのが保育の質。多様で多層的で、簡単には定義できない。

「保育の質を高めるにはこういう保

育をしなさい」と上から押しつけられるのではなく、現場がこれまで大事にしてきたことをふまえてボトムアップで発信していくことがあります。

今春、自己評価のガイドラインが改訂されました。今まで自己評価というとチェックリスト式で、できるかできないかを評価されるというイメージでした。しかし、それだけではなく、ふだん保育の中でやっているような「○○ちゃんはこうだよね」「ああだよね」という子どもの姿の振り返りを語り合いながら深めていくことが自己評価であり、保育の質を高めていくのだとガイドラインに示されました。

保育の質といふとすぐ壁苦しいけれど、保育者同士で子どものことを語り合ったり、こうしてみよかああしてみよかと話し合ったりしながら、だんだん保育が楽しくなつ

ていくことが大切で、それがイコール保育の質なのかもしれません。

とはいえ、保育の質を語るためにはこうした側面だけではなく、いわゆる構造の質の面での議論も必要です。

具体的には、人員の配置や時間の問題です。少ない人数で長時間保育をせざるを得ない状況では、語り合いで保育の質を高めていくこ

とが難しい。その現実をふまえて、これから先、どうしたら保育の質を高められるかを考えいかなければならぬと思っています。

沙見 ありがとうございました。それでは次に、北野さん、袖沼さん、國の立場からのご意見を聞かせてください。

**子どもの生活**

**保育者に余裕がなければ質の高い保育は目指せない**

北野 私は福岡県の北九州市の保育所認定とともに園で保育をしていました。いま、大豆生田先生から、構造の質というお話をありました。まさにいま、このコロナ禍が大切なこと

を浮き彫りにしてくれたと感じています。

その一つが、人員の配置と時間の問題です。緊急事態宣言により登園白黒表が出ていたことで、結果的に通常の3割ぐらいの登園率になりました。また、保護者の就労形態も変わわり、長時間保育の子が減りました。そうしたら人員配置と時間にゆとりができる、いま盛んにいわれているノンコンタクトタイムが生まれました。保育者同士で保育を語り合う時間、保育を学び合う時間ができたのです。

保育の質とは何かと問われるときに、保育の内容や物的環境も重要なけれど、それ以前に、人員の配置や時間など保育制度の根幹にあたる部分を見直すことが大切なのだとわかりました。

コロナ禍が大切なことを浮き彫りにしてくれました（北野）



家庭や地域も含めて、子どもの生活をまるごとよくする必要があります（神沼）

**神沼** 私は埼玉県の久喜市で、認定こども園、小規模保育園、企業主導型保育所、そのほか子育て支援センターや学童保育所などを運営しています。

もともとは私立の幼稚園でしたが、このエリアは人口減少がひとくちで、どう子どもを増やしていくか、どうまちを活性化していくかということを考えるなかで、20年ほど前から子育て中心のまちづくりみたいなことを始めて、いまに至ります。

「認定こども園」ともむら」という名前からもおわかりいただけるように、園を運営するというよりは一つの村をつくろうというイメージです。その経験から保育の質を考えてみたときに、「あらためて感じたのは、どんな保育をするか」ということより



## 保育の質が高い園に共通する五つのポイント

**大豆生田** お二人の話を聞きながらあらためて、子どもと同じようによくあると思いました。

また、持続可能な社会をつくるにあたり、これまでの地域の子育て支援という機能をさらに拡大させて、これからは園を拠点とした地域のコミュニケーションづくりに軸を移していくか

なければならぬとも思いました。  
**沙見** ここまでのお話で、だいぶ保育の質というものが見えてきましたね。園の検討会でも、保育の質の定義は難しいけれど、ここは質が高い園だとされているところにはいくつか共通する特徴があると言われています。

たとえば、「子どもを中心型の保育を追求している」「自分たちの保育を振り返る時間をつくっている」「ペテランも新人も対等に子どもの姿を話し合えるような同僚性がある」など、北野さんや神沼さんがおっしゃっていたことなどがります。

**大豆生田** 私たちが行ったヒアリング調査では、保育の質を高める要素として五つのポイントが仮説として出できました。

## 自治体の職員には、必ず



も、どんな子どもを育てていくか、どんな社会をつくりいくかのはうが大切だということです。子どもは園の中だけで育つわけではなく、家庭や地域の中でも育っていくのだから、それも含めて子どもたちの生活をまるごとよくする必要があると思いました。

それと同時に、北野先生がおっしゃるように、保育者が余裕がなければ、質の高い保育は目指せないということも痛感しました。園には、異文化の子や発達に課題のある子、家庭の事情を抱えている子、いろいろな子がいます。そういう子ともたちに対応するには

人間性が必要。子どもだけでなく保育者も人として育つていかなければなりません。

① 子ども主体の保育をしている。  
② 保育を語り合う風土がある。  
③ 保育者同士の関係がよい。  
④ 家庭や地域とつながっている。  
⑤ リーダー層がしっかりとしている。

これらの人間性がそろうにはそれなりの条件が必要で、そこにはやはり構造の質の問題があり、それは自治体の対応とも関連してくる。これまでの議論でも、自治体が果たす役割にすごく期待しているという意見が多く出されました。つまり、それぞれの市区町村ごとに、どうやって自分たちの保育の質を高めていくかを考えていってほしいということです。

たとえば、ある自治体では、一つドキュメンテーションを作れば、それが日誌にもなり、監査にも通るというふうにして、保育者の負担を減

# 結局、保育は制度。園と自治体がよい関係をつくっていくことが保育の質を上げていくことは間違いないありません（沙見）

らしています。また、研修を受けっぱなしにしないために何回かに分けて、1回目を受けたら園に戻って実践し、2回目にその結果を持ち寄る往還的な研修の取り組みをしています。

その結果、多くの保育者から「保育が楽しくなってきた」という声が聞かれるようになつたそうです。

## 保育の質を高めるために期待される自治体の役割

沙見 保育は制度ですから、その制度を管轄している自治体が保育のことをよく理解し、現場の保育者の喜びや大変さに精通したうえで、どうしたら働きやすい職場がつくれるかを考えることが大切。そこで、検討会には行政のメンバーが必ず加わっ

ています。さらに、そのメンバーは研修を受けるべきだという話も出ています。

いずれにしても、園と自治体がよい関係をつくっていくことが保育の質の向上につながることは間違ない。北九州市では、北野さんが中心となり、ずっとそれに取り組んでいますね。

北野 はい。おかげさまで私どもの保育団体は北九州市の自治体と、仲よくけんかしながらやってきました（笑い）。たとえば、全国に先駆けて0歳児の配置を3対1にしたり、民間園のおむつの支給を一人一人あたり3枚から6枚に引き上げたり。子どもたちに必要だとと思うことを、全国調査をして数字を示しながら自治体に訴え、勝ち取ってきたという歴史があります。

これは昭和58年に始めて、いままでずっと続けています。

練習すごい。そこまでやられていないのですね。そんなふうにして自治体の職員を育て、理解を得ていく努力が必要なんだと気づきました。ぜひ見習いたいと思います。

史があります。

もう一つ、保育を担当する自治体の職員には必ず一日保育士体験をしていただいている。市長も、保育課の職員も代わるたびに全員、保育



## 子どもの姿を語り合うことで保育の質は必然的に上がる

沙見 さて、保育の質を高めるためには研修も重要ですよね。補足さん

のことでは、研修を工夫されたと伺いました。そのお話を聞かせてください。

補足 はい。うちの園では数年ほど前までたくさん研修をやっていました。主に講義型で、いろんな先生に来ていただいていました。でも、そういうふた受け身の研修は、ほとんど身にならないばかりか、休みが閉じることで職員の疲弊感も大きく、しないに「また研修か…」というよ

うな空気になってしまったという経験があります。

研修は研修のあるものではないく、職員や子どもたち、地域、家庭にフィードバックされないと意味がない。そう考え直して、いまは講義型の研修は減らし、参加型の研修を増やしています。

そして、園内研修では、研修といふほど大げさなものではなく、「ある事例について15分ほど話そう」というように、ちょっととした話しあいの機会を増やしています。時間をきちんと区切り、主任や園長がいると話していく場合もあるので、話題によつては同世代の人同士で話す機会をつくったりもしています。

あと、実はコロナ対応によっての



いい保育をしている保育者は、自分の人生を楽しんでいる人が多い気がします（沙見）

つもりだったのですが、自然と話し合いで中に先生に入っていたらと、いう形になりました。そうすると、ふだん言えないようなこともなぜか言えたり、聞くだけだった人が話せたり、今までの研修とはちょっと違う感じになってしまった。保育の質を高めるという意味では、効果があると感じています。

沙見 大げさな研修でなくとも、語り合う回数を増やすことがいいんですね。子どものことを語り合っているときは、保育者はものすごく元気になります。子どもの姿の発見、子どもからの学び、それを語り合いながら共有していくことで、保育の質は必然的に上がっていくんですね。

あと、これは僕の個人的な意見なのですが、保育の質を上げるには、

保育者の精神的な蓄えというかゆとりが必要だと思います。いい保育をしている保育者は、自分の生活を楽しんでいる人が多いような気がします。

### 保育以外の経験が子どもに還元されていく

北野 先日、保育者176名にアンケート調査を実施し、その中に「自分が豊かにするために何をしていますか」という質問項目を入れたんです。そうしたら、「趣味の時間を持つ」という答えがたくさん出てきました。いま沙見先生がおしゃったように、本を読んだり音楽を聴いたり、おいしいものを食べたりなど、保育以外の経験がまわりまわって子どもに還元されているのは確かだと思います。



## 保育の質と 若手育成

### 現場を悩ませる 世代間ギャップをどうするか

沙見 保育の質は、若い保育者をどう育てていくかということとも関係してきますね。

楠沼 世代間ギャップについては、私も大いに感じています。たとえば、私たちが若いころに魅力を感じていた旅行だと車だと海外だと、いまの若い人たちがそれほど興味がないような…。きっと育ってきた環境が違うんですね。もう少し広い視野をもってほしいと思う半面、いまの時代の子たちのよさもあるので、会話をする機会をもつことで互いに

理解し合えたら、そこでのうちの園では、年に1回だけ、参加できる全園員で泊まりの研修をしています。ここは鬼怒川に近いので、鬼怒川のホテルにみんなが集まって、その日だけは一緒に食事をしようね、寝食をともにしようね、と、部屋割りも組み合わせを工夫して、それでも話をしたことなかつたような人と話したり、先輩の話を聞いたりする機会にしています。

大豆生田 若い人たちとの世代間ギャップについては、日々学生と接している私が一番リアルに感じているのかもしれません。実はここ数年、学生とのコミュニケーションのとりにくさに悩んでいました。

ところがコロナ以降、大学での授業がなくなり、ゼミ生と毎回、オンラインで顔を合わせるようになつたときに、「いまの若い人は」と切り替てるのではなくて、子どもを見るのと同じみなさじで見るべきではないか、ということ。その人が見ている世界と一緒に共有し楽しむことで、コミュニケーションが円滑になつた。

保育者が自分の趣味や特技を保育

実はうちの園では、長期休暇がとれるように配慮し、組み合わせているんですよ。1日、2日の休みをたくさんとるよりも、1週間程度、まとめて休むことを勧めています。どこか旅行に行ったり、ふだん読めない本を読んだり、保育以外の世界を広げてほしいので、ただ最近、学生さんも含めて若い人たちがおとなしいというか、一歩踏み出すためには後押しがいるところも。私たちの若いころと比べて、狭い世界で満足してしまっているような気がするんですよね。



# 保育者の地位向上、賃金アップのためには、できること

私たちはどう思う

子どもの主体性を育てる保育、そして親支援。  
幅広い専門性が求められる保育者の地位向上は重要なテーマです。

保育者自身がやるべきこと、  
保護者と一緒にできることなど、  
社会に求めたいことなど、  
将来を見据えた  
地位向上への思いを  
工デュカーレ読者に  
聞きました。



## 自らSNSで発信をする

私たちの仕事を広く知つてもらうために、たとえばメディアやSNS等で発信するのも、一つの手段かもしれません。学校教育ばかり注目されてしまいがちですが、その前の幼児教育がいかに大切であるかを、保護者を含め、広く知つてもらえたらしいなと思います。(千葉県 公立保育園)

や  
り  
た  
い  
こ  
と

の中に生かしてしたり、サークル活動をしていたりする園もあります。そういうのが得意な若い人に任せることなどして、その人との出合をつくっていくといいのです。

保育の質は、最終的には人間関係や文化の問題につながっていることがコロナ禍を経てはっきりと見えてきた気がします。



**未  
来**

## 持続可能な社会の構築と深く結びつきながら

楠沼 いまの若い人たちが次の世代

を育て、さらにその人たちが未来の保育者になっていく。そこにはどんな時代になっていくのか。時代の移り変わりとともに社会のありようも変わってくると思います。実際、このコロナで考えられないほど急速に世の中は変わりました。

しかし、どんな時代であっても保育とは、子どもたちの生きる力を育てていくという点においては変わりません。

だからこそ原点に戻り、いままでこうだったからとか、こういう行

事をしていたからということから離れ、ゼロからあらためてこれから社会で生きる子どもをどう育てていかかを考えるべき時代なのかなと感じています。

いまこそ本気になって人を育てていかないといけない。

沙見 もっと視野を広げると最近

SDGs、持続可能な社会ということがいわれています。保育というのは、どんな社会をつくりていくかというのと深い関係があり、いま一番優先しなければならないのが地球というかけがえのない星をどうやって持続させていくのかということ。育てていきたい子ども像はそこと深く結びついています。

保育は保育の世界にとどまらず、地域ぐるみ、まちぐるみで考えていかなければならない。

今日はそれぞれの立場からの貴重なお話をありがとうございました。